活きる空き

学生団体 ISARIBI with

名畑公晴（北海道大）

三浦なず菜（教育大函館）

はじめに、３つの家屋をご覧ください。

1つは、現在リノベーションが進んでいます。

1つは、新しいお店の開店準備中でした。

1つは、利用の目途が立っていない空き家です。

情報が見えないと、わからないですよね？

情報が見えないと、わからないですよね？

＝市民の目線では、実際の数より多く
　空き家があると認識されているのでは？

空き家が多く見える町って…

悪循環

マイナス印象を与える

町に活気が無い…？
人が減っている…？

学生50名への聞き取り

空き家が多いこと、町の衰退が見えると、
「住みたくない」という考えが増える　44％

でもこの状況、

実はチャンスです。

ゲイン効果

マイナス→プラス印象の方が

もともとプラス印象よりも、

より好意的に見える

(Aronson & Linder, 1965)

再活用されて
良いカンジな場所も多いですよね！

好循環

プラス印象を与える

新しいこと始まってる！
これからに期待できる！

［学生50名への聞き取り］

再利用されることが目に見えたら、
町の印象が良くなると答えた学生　58％

ただ…、

空き家の「再活用」って現実、簡単なわけがない。

✓年単位の準備期間　　課題

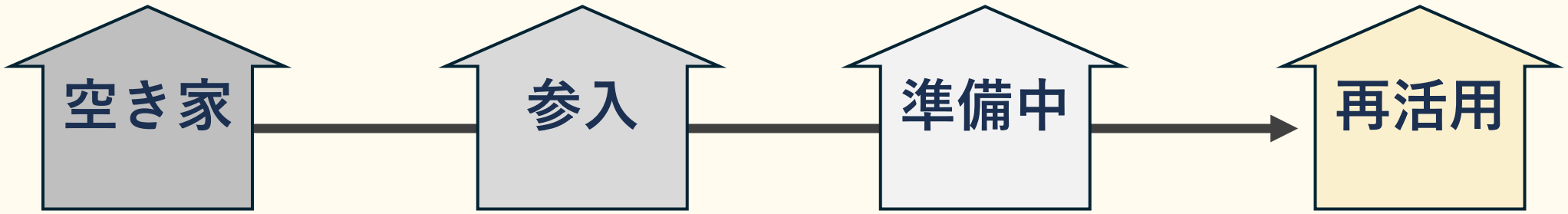
✓数百万円～の費用　　・空き増加ペースに追いつかない

✓実現させる熱意　　・準備しているうちに去っていく

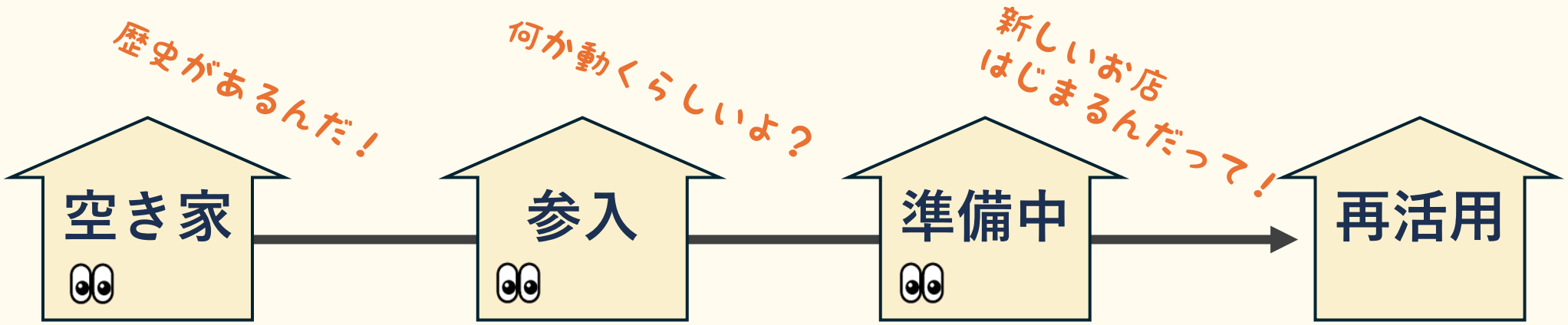
自分が実践しよう！と思えますか？・できますか？

そこで 立ち上がったのが

活きる空き



マイナスに見えがちな段階も…、



マイナスに見えがちな段階も…、

プラスに見えるようにすれば、

まちへの期待を高める「活きる」空きにできる！

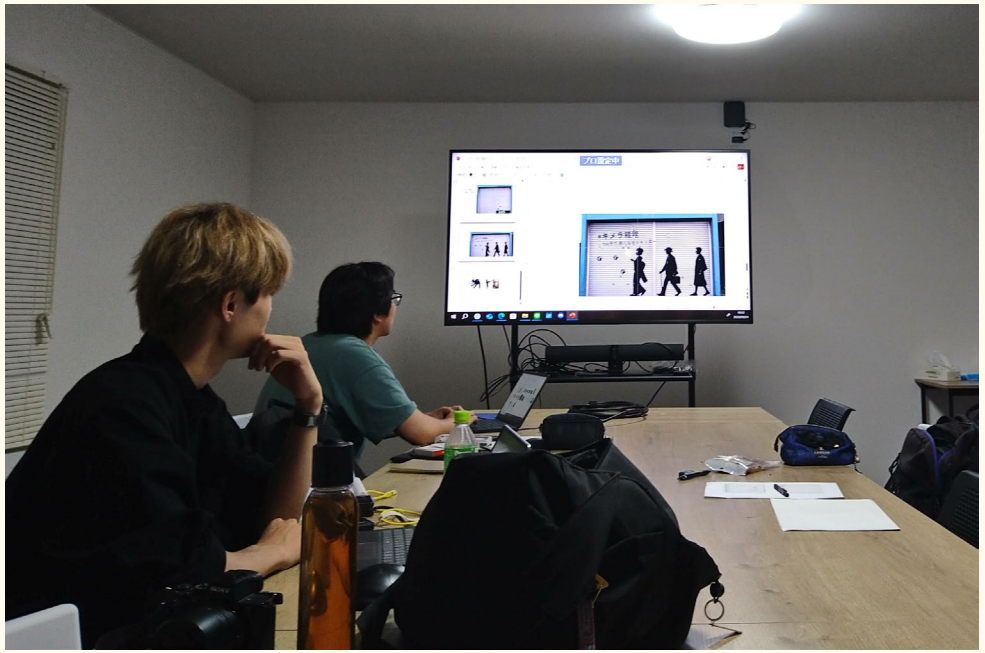
例えば。

見えれば、交流が増える

西部地区に佇んでいる古民家。

実は、リノベーション計画が動いていた。

現地でヒアリングすると、
独特すぎる歴史に驚愕。



どうすれば面白さが
伝わるか話し合い…

新聞風なら、

見えて、

読めて、

伝わるかも？

箱館のキメラ リノベに駆ける!!

発行：学生団体 ISARIBI with 活きる空き PJ
協力：キメラ箱館

活きる空き

キメラ（Chimera）…ライオンの頭、蛇の尾、ヤギの胴をもち、口から火を吐くというギリシャ神話の怪獣。キマイラ。［出展：デジタル大辞泉］

この建物はキメラ箱館と呼ばれる。その由来は、明治・大正・昭和の建築様式が融合した非常に珍しい特徴をみて、住民が「まるで、キメラだ」と述べたことからくる。そんなキメラ箱館は、現在家主らの手によってリノベーションの計画が進行中である。

知られざる過去・現在・未来！

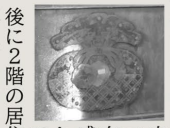
かつて、ここは北海道イチの繁華街だった。

函館開港時、外国人居留地や税関が置かれた西部地区の先端である弁天町。七福神の名で縁起の良い地名から隣接する大黒町と共に道内一の繁華街でした。又、人々が集まる芝居小屋や遊郭などの商売が軒を連ねる地域であったとも伝え聞きます。

幕末に起きた函館戦争では、旧幕府軍によりこの地に弁天台場が築かれ、五稜郭と共に新政府軍に対峙する防衛拠点となり、新選組の志士達もこの地に集結し激しい市街戦となりました。しかし道内一の繁華街だったこの地も弁天台場は埋め立てられて造船所となり、函館の周辺地域への拡大開発が進むにつれ、今となっては点在し残された古い建物群に当時の面影を残すのみです。

さて、ここキメラ箱館は「大正3年築の擬和洋折衷建築」が函館市電通りに面しています。しかしその奥には「明治44年築の土蔵」とその周りに建てられた「昭和期の弁当工場」という3つの異なる時代の建築物が合体したものです。それを由来にキメラの名が付きました。

そして令和の今、キメラ箱館は新たな宿泊施設を目指してリノベーションを始めます。



史のロマンを存分に感じたところで、最後に2階の居住区を拝見。昭和の区画が、素敵な部屋へと改修されていた。昔の名残を活かしつつ、家主こだわりの部屋っとして蘇っている。探検を終え、全てが一つの家屋に融合しているのを肌で感じた。思わず一言。まさしく、キメラだな。今後のリノベーションが楽しみである。

めしたのかな？と昔の働き手たちを想像するのが楽しい空間だ。

そんな空間の中に間髪入れず突然に現れるのが百年以上前に建てられたとされる、明治時代の土蔵であった。

の稼働を目指す。費用や労力のかかる一階広間のリノベーション資金を貯めるためだ。

歴史に圧倒されている間は無かった。ここが「キメラ箱館」たる所以はここからだ。渡り廊下を出ると、文字通り、世界が変わった。コンクリートと金属色の空間は昭和の弁当工場跡。ここで調理をしたのかな？ここで箱詰

編集部は、家主協力のもと建物内部を探った。正面左手の門をくぐり、どこか懐かしさを感じる路地を進めば大正時代の家屋に繋がる玄関がある。高い段差と格子の扉、そして華やかな意匠の丸窓が出迎えてくれた。一階に広間。二階には個室が並ぶ。現代ではまず手に入らないとされる真っすぐな木目の梁や、美しい装飾が今もなお残っている。目下のところは、二階部分を改修し、宿泊施設として

キメラ箱館大解剖!!

家主の案内でみつけた不思議空間

10月5日・26日（土）塗装ワークショップ開催！

あなたもリノベに参加しませんか？

参加費無料 & 部分参加OK

第一回　10月5日「自分だけの5感で感じる函館発見の旅」

弁天町の町中を歩いて観察したり、塗装をやすって色の層から歴史を見つける「こすりだし」体験を通じて、函館の色を考えましょう！

第二回　10月26日「キメラ箱館の塗装に参加しよう」

第一回でつくった函館の色でキメラ箱館の壁を塗ります！塗装屋さんのお話しを聞きながら、やすりや塗装の作業を実際に体験できます！

＊この活動は北海道遺産協議会事業「ほっかいどうWAON寄附金」による助成を受けています。

最新情報や申込みに飛べるQRコード

詳細・申し込みは、コチラから！

4こま コラム「見せれば…」

広告欄

学生団体ISARIBI with「活きる空き」プロジェクトでは、函館市内の空き地・空き家をプラス印象に変えていくべく活動中です。シャッターアートやポスター掲示など様々な方法であなたの周りの「空き」を好印象に！活動協力や場所のご提案等、絶賛受付中です。

空き家募集中！

シャッターって

実は大きな

メッセージボード！

通りかかれば見えるように。
良いコミュニケーションを
生みだす「活きる空き」へ。

もう一つ例えば。

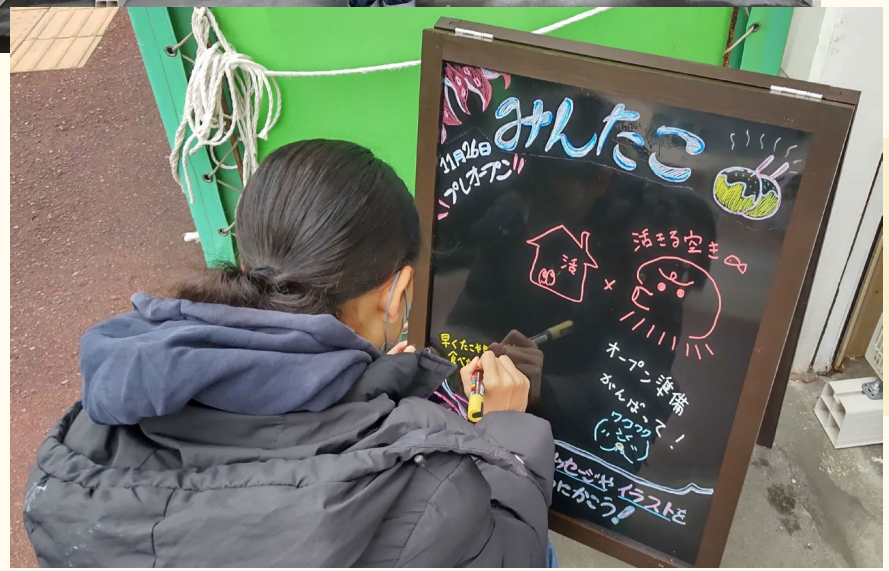
見えれば、町に楽しみが増える

中島廉売で並ぶシャッターの1つ

実は、画期的なたこ焼き屋が準備中だった。

町の子どもたちへの
アツい想いを伝えてもらう

子どもたちが
ワクワクして開店を待てるには？



シャッターアートで、
お店が始まると一目でわかるように。

らくがきボードを置いて、
いつでもやり取りできるように。

開店への期待を高める
「活きる空き」へ。

これらを作ったのは、デザインも町づくりも素人の学生たち。

2024年からの活動で 作った活きる空きは 市内８箇所。

学生レベルかもしれない。

でも、町中にプラス印象をちょっと増やせたんです。

学生レベルでできるなら。

誰にでも、町中にプラス印象を増やせると思いません？

空き家の「再活用」

✓年単位の準備期間

✓数百万円～の費用

✓実現させる熱意

「活きる空き」つくり

✓2か月で計画～作成

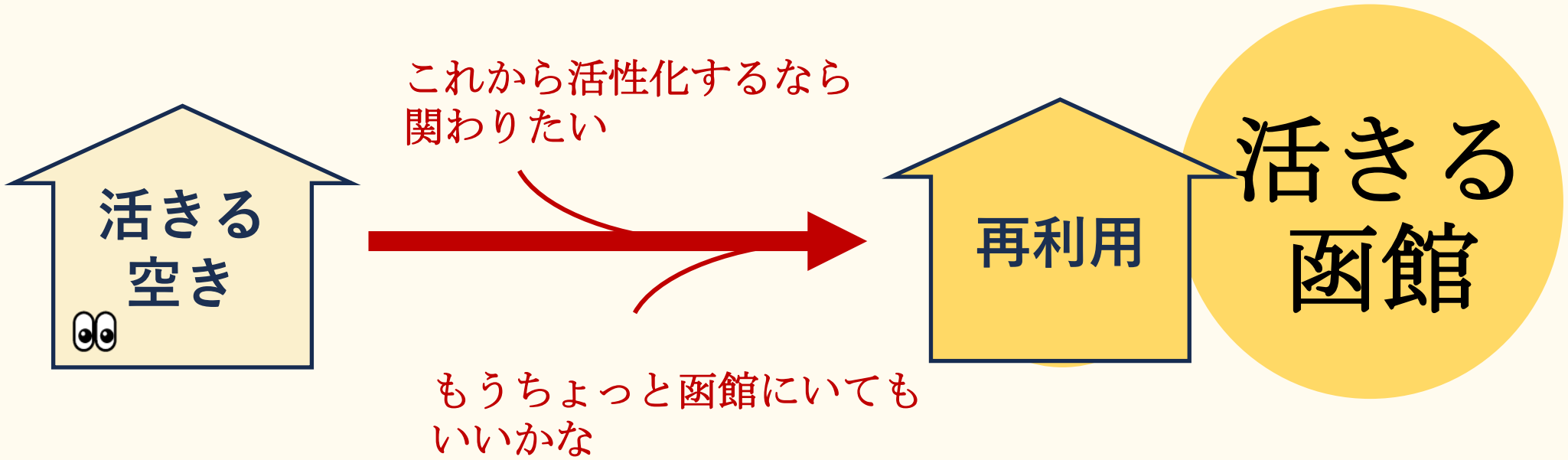
✓数千円で1件できる

✓楽しんで町と関われる

400万円と作り手がいれば、

函館の空き家すべてをプラスにすることだってできる。

活きる空きは、助走です。



これからも。

利用方法がまだ決まっていない空き家。
あなたなら、どうやってプラスに魅せますか？

活きる空きの活動は２年目に突入します。

ただ実は、チームが小さくなっています。

『あれ、活動メンバー、学生だけに限定する意味ってないのでは？』

一緒にやる人が増えるなら、町のプラスはもっと増やせる。

今日から！作り手の間口を広げます。

活きる空き

でした！

町を知りたい、

町に見せたい、

町と関わりたい方、ぜひ一緒に。